

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗

株木建設株式会社
土木部
所長

林 典夫

1992(平成4)年、株木建設株式会社に入社。以来、ダム工事、トンネル工事、橋梁下部工事等を経験し、現在に至る。



どんなに忙しくても、 冷静になって作業を見直す

入社4年目の27歳のとき、トンネル工事を担当していた時のことです。入社してからダム工事しか経験したことがなかったため、不慣れながらも毎日忙しく測量や出来形検査、コンクリート等の材料手配といった作業を行っていました。

トンネルの掘削は順調に進み、覆工コンクリートを打設する段階になった時のことです。測量して覆工コンクリートのスパン割を計画していたところ、非常用設備スペースの位置がおかしいことに気がきました。当初設計図面の坑門位置が現場照査により変更となっていたのですが、それに伴って変わる非常用設備の図面修正をしないまま掘削していたのです。

掘り直すために、だいぶ先まで進んでいたトンネル掘削用の機械を呼び戻し、トンネルを覆っていたシートを外して再度正しい位置で非常用設備スペースの箱抜き掘削作業を行いました。覆工コンクリート打設前に気付けたのですが、この失敗のため作業工程が1週間ほど遅れてしまいました。

図面修正が必要だということは頭の片隅に残っていたのですが、自分がやらなければいけない作業しか目で追ってはなく、とにかく掘り

進めるという考えで頭がいっぱいでした。日々の作業を整理し、工程に間に合いそうもないときは早く上司に相談する。自分が行った作業を一步引いた位置から見直すことができていなかったことが失敗の原因だったと思っています。

この失敗を経験してからは、どんなに忙しくても一旦冷静に考える時間を設けることを心掛けるようになりました。そのためには図面は常に最新のものか確認するといった情報整理が大事だということも同時に学びました。

現在は現場を任される立場となり、状況を俯瞰する余裕や時間もできてきましたが、若手の時はやらなければいけないことが多く、日々の作業に追われ気持ちに余裕がないと思います。それでもちょっとした時間をつくることを意識し、落ち着いて工事全体の様子についても考えるようにと部下にも伝えていきます。

主任技術者として携わった「東京国際空港国際線地区共同溝他築造工事」では、東京土木施工管理技士会の優良技術者表彰をいただきました。自分が常に現場の状況を冷静に見ることができているか、自信がないときもありますが、これからも意識し続けて品質の高いインフラを造る努力をしていきたいと考えています。